

妙法蓮華經常不輕菩薩品

第二十

(開結五六七貞)

我深く汝等を敬う。敢えて輕慢せず。所以は何ん。  
汝等皆菩薩の道を行じて、當に作仏することを得べ  
しと。

「月水御書」（御書全集一二〇一頁）

月水御書(御書全集一二〇一頁)  
法華經は何れの品も先に申しつる様に愚かならね  
ども、殊に二十ハ品の中には勝れてめでたきは方便品  
と壽量品にて侍り。餘品は皆枝葉にて候也。されば  
常の御所作には、方便品の長行と壽量品の長行とを  
習ひ讀ませ給ひ候へ。又別に書き出してもあそばし  
候べく候。餘の二十六品は身に影の隨ひ、玉に財  
の備はるが如し。壽量品・方便品をよみ候へば、自然  
に餘品はよみ候はねども備はり候なり。

とうりゆうぎょう じ しよう

# 「當流行事抄」(富士学林版六巻抄二九五頁)

大覺世尊設教の元意は、一切衆生をして修行せしめ  
乃至、當門所修の二行の中に初めに助行とは方便  
壽量の兩品を讀誦し、正行甚深の功德を助顯す。  
へば灰汁の清水を助け、鹽酢の米麵の味を助くが如  
し、故に助行と言ふなり。乃至、正行とは、三世諸佛  
の出世の本懷、法華經二十八品の最要、本門壽量の  
肝心、文底秘沈の大法、本地難思、境地冥合、久遠

元初自受用身の當體、事の一念三千、無作本有の南無妙法蓮華經是れなり。荊溪尊者謂へる有り、正助合はせ行じて因つて大益を得と云云。乃至、  
問う、今當門流或は但十如を誦し、或は廣開長行を誦す。其の謂れ如何。  
答ふ、十如の文既に是れ一念三千の出處なり。故に、  
但之を誦すれば其の義則ち足りぬ。然りど雖も略開は正開顯に非ず。故に、  
一念三千猶未だ明了ならず。故に、  
に廣開に至るなり。疏記三下に云く、今諸佛及び釋迦に廣開に至るなり。

を歎するは下の五佛の弄引の為なり等云云。又第七  
に云く、略開は但是れ動執生疑にして正開顯に非ず  
等云云。宗印の教義に云く、三千は是れ不思議の  
妙境なり、若し開權顯實に非ずんば豈能く互具互融  
せんや云云。開日抄上に云く、法華經方便品の略  
開三顯一の時、佛略して一念三千の本懷を宣ぶれど  
も、時鳥の初音を寢臥たる耳に聞くが如く、月の山  
の端に出でて薄雲の覆へるが如く幽かなり等云云。  
故に知んぬ、若し廣開に至らずんば一念三千其の義

なおいま  
ふんみょう  
だいがくしょう  
なか  
ほうべんぽん  
ちようごう  
ちようへん

名づくるなり。

雖も比丘偈の長篇に  
は即ち廣開の長行を  
大覺抄の中の方便品  
仍未だ分明ならず。

ゆえ こうかいぢょうごう す  
故に廣開長行を誦するなり。  
の長行をも習ひ誦むべしと言ふ  
指すなり。其の間に偈頌有りと  
望めば其の前は通じじて皆長行と

# 「大石記」(富士宗学要集 旧版十巻一五五頁)

日目上人は日興上人へ佛法の御異見をば御申しあり  
き。所謂方便品の開三(十)如是迄のこと)計り遊ばして廣  
開三(世雄偈のこと)を遊ばざりけるを、日目、日興上  
人へ御申しある様は大聖人の御時已に遊ばされ候ひしに  
尤も読むべきにて候如何と、其の時上人仰せに云く尤も  
爾るべく候へども新發意共が自我偈をだにも覚えざる程  
に之を略し候。已後読み候べしと其れより遊ばしける

なり。又其の後中絶したりけるが今いまの日恩にちおんの時又興行ときまたこうぎょうし  
て南みなみの坊主ぼうずに書かさせ参まいらせて大貳だいにあじやりとう阿等はぢを始めとして  
懷中かいちゆうして稽古けいこして読み給たまふなり。

みよーほーれん げーきよーほーべん ぽん だい にー  
妙法蓮華經方便品第二

にーじーせーそんじゅーさんまいあんじよーにーきーごーしゃりほつしょーふッ  
爾時世尊從三昧安詳而起告舍利弗諸佛  
ちーえーじんじんむーりよーごーちーえーもんなんげーなんにゅーいッさいしょー<sup>1</sup>  
智慧甚深無量其智慧門難解難入一切聲  
もんひゃくしーぶつしょーふーのーちーしょーいーしゃーがーぶつぞーしんこんひゃく  
聞辟支佛所不能知所以者何佛曾親近百  
せんまんのくむーしゅーしょーぶつむーりよーピーほーゆーみよー<sup>2</sup>  
千萬億無數諸佛盡行諸佛無量道法勇猛

精進名稱普聞成就甚深未曾有法隨宜所  
說意趣難解舍利弗吾從成佛已來種種因  
緣種種譬喻廣演言教無數方便引導衆生  
令離諸著所以者何如來方便知見波羅蜜  
皆已具足舍利弗如來知見廣大深遠無量

無礙力無所畏禪定解脫三昧深入無際成  
就一切未曾有法舍利弗如來能種種分別  
巧說諸法言辭柔軟悅可衆心舍利弗取要  
言之無量無邊未曾有法佛悉成就止舍利  
弗不須復說所以者何佛所成就第一希有

難解之法唯佛與佛乃能究盡諸法實相所

謂諸法如是相如是性如是體如是力如是  
作如是因如是緣如是果如是報如是本末

究竟等爾時世尊欲重宣此義而說偈言

世雄不可量諸天及世人一切衆生類無能知佛者

佛力無所畏 解脫諸三昧 及佛諸餘法 無能測量者  
本從無數佛 具足行諸道 甚深微妙法 難見難可了  
於無量億劫 行此諸道已 道場得成果 我已悉知見  
如是大果報 種種性相義 我及十方佛 乃能知是事  
是法不可示 言辭相寂滅 諸餘衆生類 無有能得解

じよーしょーぼーさツしゅーしんりきけんごーしゃーしょーふうでーしーしゅーぞーくーよーしょーふう

除諸苦薩衆信力堅固者諸佛弟子衆曾供養諸佛  
一切漏已盡住是最後身如是諸人等其力所不堪  
假使滿世間皆如舍利弗盡思共度量不能測佛智  
正使滿十方皆如舍利弗及餘諸弟子亦滿十方刹  
盡思共度量亦復不能知辟支佛利智無漏最後身

亦滿十方界 其數如竹林 斯等共一心 於億無量劫  
欲思佛實智 莫能知少分 新發意菩薩 供養無數佛  
了達諸義趣 又能善說法 如稻麻竹葦 充滿十方刹  
一心以妙智 於恒河沙劫 咸皆共思量 不能知佛智  
不退諸菩薩 其數如恒沙 一心共思求 亦復不能知

又告舍利弗 無漏不思議 甚深微妙法 我今已具得  
唯我知是相十方佛亦然 舍利弗當知 諸佛語無異  
於佛所說法 當生大信力 世尊法久後 要當說真實  
告諸聲聞衆 及求緣覺乘 我令脫苦縛 逮得涅槃者  
佛以方便力 示以三乘教 衆生處處著 引之令得出

爾時大衆中有諸聲聞漏盡阿羅漢阿若憍  
陳如等千二百人及發聲聞辟支佛心比丘  
比丘尼優婆塞優婆夷各作是念今者世尊  
何故慇懃稱歎方便而作是言佛所得法甚  
深難解有所言說意趣難知一切聲聞辟支

佛所不能及佛說一解脫義我等亦得此法  
到於涅槃而今不知是義所趣爾時舍利弗  
知四衆心疑自亦未了而白佛言世尊何因  
何緣慇懃稱歎諸佛第一方便甚深微妙難  
解之法我自昔來未曾從佛聞如是說今者

四衆咸皆有疑唯願世尊敷演斯事世尊何  
故愍勸稱歎甚深微妙難解之法爾時舍利  
弗欲重宣此義而說偈言

慧日大聖尊久乃說是法自說得如是力無畏三昧  
禪定解脫等不可思議法道場所得法無能發問者

我意難可測 亦無能問者 無問而自說 稱歎所行道  
智慧甚微妙 諸佛之所得 無漏諸羅漢 及求涅槃者  
今皆墮疑網 佛何故說是 其求緣覺者 比丘比丘尼  
諸天龍鬼神 及乾闥婆等 相視懷猶豫 瞳仰兩足尊  
是事爲云何 願佛爲解說 於諸聲聞衆 佛說我第一

我今自於智疑惑不能了爲是究竟法爲是所行道  
佛口所生子合掌瞻仰待願出微妙音時爲如實說  
諸天龍神等其數如恒沙求佛諸菩薩大數有八萬  
又諸萬億國轉輪聖王至合掌以敬心欲聞具足道  
爾時佛告舍利弗止不須復說若說是事

一切世間諸天及人皆當驚疑舍利弗重白  
佛言世尊唯願說之唯願說之所以者何是  
會無數百千萬億阿僧祇衆生曾見諸佛諸  
根猛利智慧明了聞佛所說則能敬信爾時  
舍利弗欲重宣此義而說偈言

法王無上尊 唯說願勿慮 是會無量衆 有能敬信者  
佛復止舍利弗若說是事 一切世間天人阿  
脩羅皆當驚疑增上慢 比丘將墮於大坑爾  
時世尊重說偈言  
止不須說我法妙難思 諸增上慢者聞必不敬信

爾時舍利弗重白佛言世尊唯願說之唯願  
說之今此會中如我等比百千萬億世世已  
曾從佛受化如此人等必能敬信長夜安穩  
多所饒益爾時舍利弗欲重宣此義而說偈  
言

無上兩足尊願說第一法我爲佛長子唯垂分別說  
是會無量衆能敬信此法佛已曾世世教化如是等  
皆一心合掌欲聽受佛語我等千二百及餘求佛者  
願爲此衆故唯垂分別說是等聞此法則生大歡喜  
爾時世尊告舍利弗汝已慇懃三請豈得不

說汝今諦聽善思念之吾當爲汝分別解說  
說此語時會中有比丘比丘尼優婆塞優婆  
夷五千人等卽從座起禮佛而退所以者何  
此輩罪根深重及增上慢未得謂得未證謂  
證有如此失是以不住世尊默然而不制止

爾時佛告舍利弗我今此衆無復枝葉純有  
貞實舍利弗如是增上慢人退亦佳矣汝今  
善聽當爲汝說舍利弗言唯然世尊願樂欲  
聞佛告舍利弗如是妙法諸佛如來時乃說  
之如優曇鉢華時一現耳舍利弗汝等當信

佛之所說言不虛妄舍利弗諸佛隨宜說法  
意趣難解所以者何我以無數方便種種因  
緣譬喻言辭演說諸法是法非思量分別之  
所能解唯有諸佛乃能知之所以者何諸佛  
世尊唯以一大事因緣故出現於世舍利弗

云何名諸佛世尊唯以一大事因緣故出現  
於世諸佛世尊欲令衆生開佛知見使得清  
淨故出現於世欲示衆生佛知見故出現於  
世欲令衆生悟佛知見故出現於世欲令衆  
生入佛知見道故出現於世舍利弗是為諸

佛唯以一大事因緣故出現於世佛告舍利  
弗諸佛如來但教化苦薩諸有所作常為一  
事唯以佛之知見示悟衆生舍利弗如來但  
以一佛乘故爲衆生說法無有餘乘若二若  
三舍利弗一切十方諸佛法亦如是舍利弗

過去諸佛以無量無數方便種種因緣譬喻  
言辭而爲衆生演說諸法是法皆爲一佛乘  
故是諸衆生從諸佛聞法究竟竟皆得一切種  
智舍利弗未來諸佛當出於世亦以無量無  
數方便種種因緣譬喻言辭而爲衆生演說

諸法是法皆爲一佛乘故是諸衆生從佛聞  
法究竟皆得一切種智舍利弗現在十方無  
量百千萬億佛土中諸佛世尊多所饒益安  
樂衆生是諸佛亦以無量無數方便種種因  
緣譬喻言辭而爲衆生演說諸法是法皆爲  
緣

一佛乘故是諸衆生從佛聞法究竟竟皆得一  
切種智舍利弗是諸佛但教化菩薩欲以佛  
之知見示衆生故欲以佛之知見悟衆生故  
欲令衆生入佛知見道故舍利弗我今亦復  
如是知諸衆生有種種欲深心所著隨其本

性以種種因緣譬喻言辭方便力故而爲說  
法舍利弗如此皆爲得一佛乘一切種智故  
舍利弗十方世界中尚無二乘何況有三舍  
利弗諸佛出於五濁惡世所謂劫濁煩惱濁  
衆生濁見濁命濁如是舍利弗劫濁亂時衆

生垢重憚貪嫉妬成就諸不善根故諸佛以  
方便力於一佛乘分別說三舍利弗若我弟  
子自謂阿羅漢辟支佛者不聞不知諸佛如  
來但教化苦薩事此非佛弟子非阿羅漢非  
辟支佛又舍利弗是諸比丘比丘尼自謂已

得阿羅漢是最後身究竟涅槃便不復志求  
阿耨多羅三藐三菩提當知此輩皆是增上  
慢人所以者何若有比丘實得阿羅漢若不  
信此法無有是處除佛滅度後現前無佛所  
以者何佛滅度後如是等經受持讀誦解其

義者是人難得若遇餘佛於此法中使得決  
了舍利弗汝等當一心信解受持佛語諸佛  
如來言無虛妄無有餘乘唯一佛乘

妙法蓮華經如來壽量口品第十六

爾時佛告諸菩薩及一切大衆諸善男子汝  
等當信解如來誠諦之語復告大衆汝等當  
信解如來誠諦之語又復告諸大衆汝等當  
信解如來誠諦之語是時菩薩大衆彌勒爲

首含掌白佛言世尊唯願說之我等當信受  
佛語如是三自己復言唯願說之我等當信  
受佛語爾時世尊知諸苦薩三請不止而告  
之言汝等諦聽如來祕密神通之力一切世  
間天人及阿脩羅皆謂今釋迦牟尼佛出釋

氏宮去伽耶城不遠坐於道場得阿耨多羅  
三藐三菩提然善男子我實成佛已來無量  
無邊百千萬億那由佗劫譬如五百千萬億  
那由佗阿僧祇三千大千世界假使有人抹  
爲微塵過於東方五百千萬億那由佗阿僧

祇國乃下一塵如是東行盡是微塵諸善男  
子於意云何是諸世界可得思惟校計知其  
數不彌勒菩薩等俱白佛言世尊是諸世界  
無量無邊非算數所知亦非心力所及一切  
聲聞辟支佛以無漏智不能思惟知其限數

我等住阿惟越致地於是事中亦所不達世  
尊如是諸世界無量無邊爾時佛告大菩薩  
衆諸善男子今當分明宣語汝等是諸世界  
若著微塵及不著者盡以爲塵一塵一劫我  
成佛已來復過於此百千萬億那由佗阿僧

祇劫自從是來我常在此娑婆世界說法教  
化亦於餘處百千萬億那由佗阿僧祇國導  
利衆生諸善男子於是中間我說然燈佛等  
又復言其入於涅槃如是皆以方便分別諸  
善男子若有衆生來至我所我以佛眼觀其

信等諸根利鈍隨所應度處處自說名字不  
同年紀大小亦復現言當入涅槃又以種種

方便說微妙法能令衆生發歡喜心諸善男

子如來見諸衆生樂於小法德薄垢重者爲  
是人說我少出家得阿耨多羅三藐三菩提

ねん がー じう じょー ぶつ いー らい くー おん にやく しー たん にー ほー べん きよー けー  
然我實成佛已來久遠若斯但以方便教化  
しゅー じょーりょー にゅー ぶつ どー さー にょー ゼー せつ しょー ぜん なん しー にょー らい しょー<sup>1</sup>  
衆生令人佛道作如是說諸善男子如來所  
えん きょー でん かい いー どー だッ しゅー じょー わく せツ こー しん わく せツ こー しん わく せツ たー しん  
演經典皆為度脫衆生或說己身或說佗身  
わく じー こー しん わく じー たー しん わく じー こー じー わく じー たー じー しょー<sup>2</sup>  
或示己身或示佗身或示己事或示佗事諸  
しょー ごん ぜつ かい じう ふー こー しょー いー しゃー がー にょー らい にょー じッ ちー けん  
所言說皆實不虛所以者何如來如實知見

三界之相無有生死若退若出亦無在世及  
滅度者非實非虛非如非異不如三界見於  
三界如斯之事如來明見無有錯謬以諸衆  
生有種種性種種欲種種行種種憶想分別  
故欲令生諸善根以若干因緣譬喻言辭種

じゅーセツ ぼーしょーさーぶつじーみーぞーざんぱいにょーぜーがーじょーぶついー  
種說法所作佛事未曾暫廢如是我成佛已  
らいじんだいくーおんじゅーみよーむーりょーあーそーぎーこーじょーじゅーふーゆう  
來甚大久遠壽命無量阿僧祇劫常住不滅  
しょーぜんなんしーがーほんきょーぼーさうどーしょーじょーじゅーみよーこんゆーみー<sup>1</sup>  
諸善男子我本行菩薩道所成壽命今猶未  
じんふーぱいじょーしゅーねんこんひーじうめうどーにーべんしょーこんどーしゅー<sup>2</sup>  
盡復倍上數然今非實滅度而便唱言當取  
めうどーにょーらいいぜーほーべんきょーけーしゅーじょーしょーいーしゃーがーにゃく  
滅度如來以是方便教化衆生所以者何若

佛久住於世薄德之人不種善根貧窮下賤  
貪著五欲入於憶想妄見網中若見如來常  
在不滅便起憍恣而懷厭念不能生於難遭  
之想恭敬之心是故如來以方便說比丘當  
知諸佛出世難可值遇所以者何諸薄德人

過無量百千萬億劫或有見佛或不見者以  
此事故我作是言諸比丘如來難可得見斯  
衆生等聞如是語必當生於難遭之想心懷  
戀慕渴仰於佛便種善根是故如來雖不實  
滅而言滅度又善男子諸佛如來法皆如是

爲度衆生皆實不虛譬如良醫智慧聰達明  
練方藥善治衆病其人多諸子息若十二十  
乃至百數以有事緣遠至餘國諸子於後飲  
佗毒藥藥發悶亂宛轉于地是時其父還來  
歸家諸子飲毒或失本心或不失者遙見其

父皆大歡喜舞跪問訊善安穩歸我等愚癡  
誤服毒藥願見救療更賜壽命父見子等苦  
惱如是依諸經方求好藥草色香美味皆悉  
具足擣篋和合與子令服而作是言此大良  
藥色香美味皆悉具足汝等可服速除苦惱

無復衆患其諸子中不失心者見此良藥色  
香俱好即便服之病盡除愈餘失心者見其  
父來雖亦歡喜問訊求索治病然與其藥而  
不肯服所以者何毒氣深入失本心故於此  
好色香藥而謂不美父作是念此子可愍爲

毒所中心皆顛倒雖見我喜求索救療如是  
好藥而不肯服我今當設方便令服此藥即  
作是言汝等當知我今衰老死時已至是好  
良藥今留在此汝可取服勿憂不差作是教  
已復至佗國遣使還告汝父已死是時諸子

聞父背喪心大憂惱而作是念若父在者慈  
愍我等能見救護今者捨我遠喪佗國自惟  
孤露無復恃怙常懷悲感心遂醒悟乃知此  
藥色香味美卽取服之毒病皆愈其父聞子  
悉已得差尋便來歸咸使見之諸善男子於

意云何頗有人能說此良醫虛妄罪不不也  
世尊佛言我亦如是成佛已來無量無邊百  
千萬億那由佗阿僧祇劫爲衆生故以方便  
力言當滅度亦無有能如法說我虛妄過者  
爾時世尊欲重宣此義而說偈言

自我得佛來所經諸劫數無量百千萬億載阿僧祇  
常說法教化無數億衆生令入於佛道爾來無量劫  
爲度衆生故方便現涅槃而實不滅度常住此說法  
我常住於此以諸神通力今顛倒衆生雖近而不見  
衆見我滅度廣供養舍利咸皆懷戀慕而生渴仰心  
衆見我滅度廣供養舍利咸皆懷戀慕而生渴仰心

しゅーじょーきーしんぶく

しちじき いーにゅーなん

いッ しん よッ けん ぶつ

ふーじーしゃくしんみよー

衆生既信伏

じー がーぎゅーしゅーぞー

質直意柔軟

くーしゅつりょーじゅーせん

一心欲見佛

がーじーごーしゅーじょー

不自惜身命

じょーざい しーふーめう

時我及衆僧

いーほーべん リツ こー

俱出靈鷲山

げんうー めう ふー めう

我時語衆生

よーこく うーしゅーじょー

常在此不滅

じょーざい しーふーめう

以方便力故

がーぶー おーひー ちゅー

現有滅不滅

いーせつ むーじょーほー

餘國有衆生

によーとーふー もん しー

恭敬信樂者

くーぎよーしんぎよーしゃー

我復於彼中

がーけんしょーしゅーじょー

爲說無上法

もつざい おーくーかー

汝等不聞此

こーふー いーげん しん

但謂我滅度

たんにー がー めう どー

我見諸衆生

没在於苦海

故不爲現身

令其生渴仰

因其心懲慕 乃出為說法 神通力如是 於阿僧祇劫  
常在靈鷲山 及餘諸住處 衆生見劫盡 大火所燒時  
我此土安穩 天人常充滿 園林諸堂閣 種種寶莊嚴  
寶樹多華果 衆生所遊樂 諸天擊天鼓 常作衆伎樂  
雨曼陀羅華 散佛及大衆 我淨土不毀 而衆見燒盡

憂怖諸苦惱  
如是悉充滿  
是諸罪衆生  
以惡業因緣  
過阿僧祇劫  
不聞三寶名  
諸有修功德  
柔和質直者  
則皆見我身  
在此而說法  
或時為此衆  
說佛壽無量  
久乃見佛者  
為說佛難值  
我智力如是  
慧光照無量  
壽命無數劫  
久修業所得  
汝等有智者  
勿於此生疑

當斷今永盡 佛語實不虛  
如醫善方便 為治狂子故  
實在而言死 無能說虛妄 我亦為世父 救諸苦患者  
為凡夫顛倒 實在而言滅 以常見我故 而生憍恣心  
放逸著五欲 墮於惡道中 我常知衆生 行道不行道  
隨應所可度 為說種種法 每自作是念 以何令衆生

得入無上道  
とくにゆーむーじょーどー

速成就佛身  
そくじょーじゅーブツしーん

初座しよざ

法華守護の一切の諸天善神、諸天晝夜常為法故  
而衛護之の御利益、法味倍増の御為に（題目三唱）

三寶供養さんぼうくよう

一閻浮提總与、全ての本尊の要旨、一切衆生平等成仏の  
妙法、御威光倍増御利益広大御報恩謝德の御為に（題目  
三唱）

末法の御本仏日蓮大聖人、御威光倍増御利益広大御報

恩謝徳の御為に(題目三唱)

第二祖白蓮阿闍梨日興上人、御威光倍増御利益広大

御報恩謝徳の御為に(題目三唱)

第三祖新田卿阿闍梨日目上人、御威光倍増御利益広

御報恩謝徳の御為に(題目三唱)

大御報恩謝徳の御為に(題目三唱)

日道上人、日行上人等御歴代上人御報恩謝徳の御為に

(題目三唱)

# 祈念

祈念し奉る爾前途門の謗法嚴戒、一天四海本因妙逆縁  
にぜんしゃくもん ほうぼうげんかい いつてんしきほんにんみょうぎやくえん

広宣流布、大願成就御祈禱の御為に（題目三唱）  
ほうぼうりゅうふ だいがんじょうごきとう のうめいに（どうもくさんちう）

某過去遠々劫現在漫々の謗法罪障消滅、現當二世大願  
それがしかこおんのんごうげんざいまんまん ほうぼうざいしょうしょうめつ げんとうにせだいがん

成就の為に（題目三唱）  
じょうじゅため（どうもくさんちう）

# 回向

（鈴を打ちながら）  
（りんううことう）

當門流信仰の面々、内得信仰の面々、各先祖代々の諸精  
靈、追善供養證大菩提の為に（題目三唱）

某先祖代々の諸精靈、追善供養證大菩提の為に

（更に他の回向がある場合はここにおいて行う）回向終わつて題目三唱

乃至法界平等成仏自他俱安同帰寂光

と観念し鈴三打、題目三唱にて終了

# 妙法蓮華經要品

(日蓮大聖人御真筆を転写)

日蓮正宗に於いて旧来から出版されて来た要品は活字体が主流ですが、本来肉筆の要品が当然ですので、大韓寺 岡本領道師に許可を頂き、大韓寺発行の肉筆漢字要品に振り仮名を加えて出版しました。

又、日蓮正宗の旧来からの要品の振り仮名は、書き言

葉、読み言葉の発音が混乱している為、この要品では読み言葉の発音に統一し全面的に改めました。

英語表記の発音、御経の解釈は、三寶院ホームページ  
<http://sanboin.net/>より検索して参考にして下さい。

練行（御経の練習）の録音も利用し、何を言つているのか分からぬ、早口勤行、崩れ勤行を改め、正しい読経唱題が出来るよう努力して下さい。

為 日蓮大聖人聖誕八百年御報恩謝德  
令和三年二月十六日

發行責任者

二七二一〇一〇〇一七

広島県福山市千田町一一二五一三四

寿福山 三寶院 廣田賴道

電話（〇八四）九五五一五六〇三